

NPO 法人 高齢期の住まい&暮らしをつなぐ会

横浜支部通信 4月号



〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-11-5 三幸ハイツ 201

TEL 03-3367-3416 FAX 03-3367-3426 ホームページ <http://www.fukushi-m.jp>

講座報告「遺品整理の現場から ～最期まで孤立しないために～」

2月28日 アートフォーラムあざみ野 参加者50人
会の名称が変わったことを記念して、各支部で講座を企画、開催しました。支部会で「自分の好きな物に囲まれて最後までいたい。残したものを誰かにお願いをしておくことはできないかしら？」という声があがっていたこともあり、日本初の遺品整理業者キーパーズ(有)を設立した吉田太一社長にお話をお聞きしました。



吉田太一さん

◆遺品整理会社を始めたいわけ

遺品整理業は、遺族のためにできたサービスです。昔は家族が同居し、誰かが亡くなくても使っていた冷蔵庫や洗濯機は家族が使えばよいので、捨てるものは下着や服くらいでした。今は、核家族化で、ひとりでも家財道具一式を持っている時代になり、残されたものを欲しいという人も少なくなり、身内の遺品で困る人が増え、遺品整理業者が必要とされるようになりました。

私がまだ38歳で引っ越し屋と、全国初の引っ越し屋のリサイクルショップをしていた頃です。たまたま、一軒の家に呼ばれ、「これは横浜の私の家に運んで、これは東京の妹の家に」と言われました。でも、大量の荷物が他にも残されており、「あの荷物どうするんですか？」と聞いたら、「今から便利屋さんかリサイクルショップを探さないといけないのよ」という話でした。「ちょっと僕に全部やらしてくださいよ」と言ったら、「えっ！全部やってくれるの？このタイミングで全部やってくれるっていう人は、神様に見える」といわれました。神様と言われお金をくれる商売があるのかと、これがきっかけでした。

◆遺品って何だろう

遺品というのは、なんとなく気持ち悪いっていうイメージがあるようです。持ち主が死んだからといって、品物が壊れたわけではなく、本当はそのままなのです。生きていたときに、わざわざお金を出して気に入ったものを集め、囲まれて、自分だけの空間をつくっていた。そこで亡くなり、残ったものが「遺品」といわれる。それらは、故人の生活をしっかり見てきていたたくさんの秘密を知っています。

私たちが現場に入ればばらくすると、そこに住んでいた人が男性か女性か、どんな仕事をしていたのか、いつも部屋のどの辺に座っていたかというのも分かります。冷蔵庫を開けたら、キリンよりサッポロが好きだったことや、青い服が好きでよくジーパンをはいていたということも分かります。そこから推測すると、性格までわかってきます。その生き様からさまざまなことを教えられます。「お金をもらって片づけて、そんなことも教えてもらえる。ええ仕事やな」と思いながらずっと続けてきました。

人間が亡くなると、亡骸、遺族、家、借金、恨み、いろいろなものが残ります。100%完了して死んでいける人は、ひとりもいません。何かしらは頼まないといけない。火葬、